

## 高山市経営戦略立案に係る有識者会議(テーマ:産業)

【事前配布シート】氏名: 臼井純子

## 《委員の皆様へのお願い》

視察及び第1回有識者会議を踏まえて、「地域資源を活かした持続可能な産業・経済の確立」に向けて産業戦略として高山市が今後取り組むべき視点や方策について、以下にご記入ください。

第2回有識者会議は、これらのご意見を基に意見交換をさせていただく予定です。

## ご依頼①:

下表の中で、「農業」「林業」「畜産業」「商業」「工業・伝統産業」「産業分野横断」で“生産・加工”“流通・販売”“各工程横断の取り組み”として、第1回有識者会議で皆様からいただいたご意見を記入しております。また、次頁「体制」「人材」の項目についても、いただいたご意見を記入しています。各項目において、加えるべきご意見・視点等があれば、「新たなご意見」の部分に追記いただきたくお願い申し上げます。

		生産／加工	流通・販売	各工程横断の取り組み
農 業	第1回 ご意見	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>飛騨高山のトマト等は他地域の同業者が羨むほど品質が高いのにブランド化されておらず、JAによる系統出荷のみとなっている。ブランド化するのであれば東京をターゲットとして販売するのがよい。</li> <li>高山の街を歩いていても高山のトマトやハウレンソウが美味しいという話はなかなか出てこない。</li> <li>トマトやハウレンソウの特徴に消費者視点のメリットが分からない。A級の素材が揃っているが、消費者メリットを伝えきれていない。</li> <li>農業ではスーパーとどのような契約になっているかがポイントであり、スーパーのバイヤーは色々なモノを探している。市が支援しながら実例を作っていかなければ系統出荷から抜けることが出来ないだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6次産業化は、当初は傷物のリンゴでアップルパイ等を作り販売していても、人気が出ると生食で販売する方が利益率の高いものを使うことになり採算が合わなくなってしまう。傷物でアップルパイを製造するならば、農家が共同で組合のようなものを立ち上げ、傷物を集荷して製造・販売する等しなければならない。</li> </ul>
	新たな ご意見	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の野菜を食べさせる首都圏や中京圏のレストランの運営または提携、そこで食材の販売などを通じて、高山の野菜の美味しさを広く認知させることも有効である。</li> </ul>	・
林 業	第1回 ご意見	・	・	・
	新たな ご意見	・	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ルイ・ヴィトンの森」のように、「高山の森」をアピールする取り組みを東京の企業と連携して進めることで、「自然保護」「森林浴」などを組み合わせた滞在型の観光への取り組みの一つとなりえないか。</li> </ul>
畜 産 業	第1回 ご意見	・	・	・
	新たな ご意見	・	・	・
商 業	第1回 ご意見	/	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の名店を巡るナイトさるくのような夜の食べ歩きを開発してはどうか。</li> </ul>	・
	新たな ご意見		・	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業、林業、畜産業、工業・伝統産業独自で展開するものと、横断的に商業が中心になり販売戦略を考えていくべきものとに分類することが必要。消費者目線での品揃えを考えて展開した方が効率的。</li> </ul>
工 業 ・ 伝 統 産 業	第1回 ご意見	・	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>高山市では工芸品を店内で作って店前で販売することができる特徴がある。</li> <li>春慶塗などは製造工程をみてもらいそれに感動して買ってもらえることもある。高いものを売るには工程を見せて価値を伝えて買わせる方がよいのではないか。</li> </ul>

産業分野横断	新たなご意見			<ul style="list-style-type: none"> <li>他地域も産業観光等では、工場を単純に見せるのではなく見せることに投資し、工程の一番面白いところを意識して見せている。</li> <li>春慶塗等、売る人と作る人を一緒にすることでより売れるものが作れるようになるだろう。</li> </ul>
	第1回ご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京では飛騨高山の名産品はなかなか知られておらずその伝達手段がない。関西圏への露出は多いが関東圏の露出は少ないためもっとPRが必要。</li> <li>物産展より常設のアンテナショップのような常に情報発信できる場が有効。</li> <li>伝統産業や農業等、販路開拓をしっかりとすべきである。販路開拓隊というプロジェクトチームを作り、事業者さんと一緒に直接営業してあげるくらいのことをしなければならない。DVD やポスター掲示だけでなく、マーケットトレーディングショー等、商談の場を活用した取り組みが必要。</li> <li>地域の内需をどのように増やすかという観点も重要。これは、高山の暮らしを深堀し、伝統的な暮らしを次の100年に伝える際に、伝統産業や文化をどのように活用し、どのように発信するかを考えることが必要。お洒落な暮らし等は、高山の伝統産業がポイントになるだろう。また、森林等の自然資源をエネルギーに変換して売電する等、新たな産業によって地域内のお金の循環や自立に繋がり、新しい高山として発信できるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>割り箸づくりの工程等は見ていると大変楽しいものである。</li> <li>観光と産業を分けるのではなく、一体化して推進していくべきである。</li> </ul>
	新たなご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>



体制	第1回ご意見	<p>(上表を実現するために必要となる体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高山市が10~20年後にどのような街になってほしいのか、どのような地域資源で何をしたいのか市が真剣にディスカッションするべきだろう。突拍子もないことを発言できる協議の場を設けた方が良いのではないか。</li> </ul>
	新たなご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>とりわけ、若い世代の人たちを集めて、10年後、20年後の高山のまちづくりについても議論をした方が良い。次世代を担う若者に、高山のまちの将来を自分自身の問題として捉え、考えてもらうことが大事である。子供たち、孫たちの時代まで高山が高山らしく継承していくために自分たちが何をしなければいけないか、を考える時期に来ているのではないだろうか。</li> <li>実現するためには、各分野で個別に取り組むだけでなく、組織横断型のタスクフォースが必要。このタスクフォースには、明確なミッションを与え、縦割り行政をできるだけ横串をさす機能を持たせ、市長直轄で取り組む必要がある。</li> </ul>
人材	第1回ご意見	<p>(上表を実現するために必要となる人材)</p> <p>【専門家】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県外のプロデューサー人材を招聘し、県内の専門家と連携して、客観性と専門性で高山市の良さをPRしていくのが有効。</li> </ul> <p>【育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他地域では工場を全て見せ、これによって全国から後継者が集まることもある。職人が一同に会する工房を作って観光で来た若者が木工等に興味を持ち、弟子入りするようなこともあるのではないか。</li> <li>高山の子どもたちが外に出て行った際に、観光大使として、高山のトマトやホウレンソウの美味しさ、春慶塗等、高山の魅力を語ることが出来る人材になるような教育が必要。</li> </ul>
	新たなご意見	<p>【専門家】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県外のプロデューサーを組織化して、高山のことを自分事として考えてもらいアイデアをだす、連携する、関係者を紹介していくなどの活動をしてもらう軍師(専門家集団)を作り、期間限定で任命してはどうか。これにより、必要な分野に、必要な時にアクセスできる軍師ができるのでは。</li> </ul> <p>【育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の子供たちに高山に住んでいることが誇れるようなカリキュラムを組み、小学校、中学校の課外授業で実施してはどうか。「好きで」「誇りを持っている」子供たちが一番の観光大使になるのではないか。</li> </ul>

(次ページへ続く)

**ご依頼②:**

上表において、高山市が今後特に取り組んでいくべき「重点事項」と思われることや、「強化すべき事項」それぞれの取り組みについてについてお考えをご記入ください。

その際、できるだけ行政・市民・民間事業者等が担う役割を明確にしてご記入ください。

<b>重点的に取り組むべき事項</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>各産業で取り組むべき課題を整理し、優先順位をつけたら、アクションプランを作成し、その実行部隊を市長直轄の組織にして期間限定で任命活動するような、迅速な取り組みが必要だと思われる。その中でも、重点事項としては、各分野の中で、すぐに結果のでるものを優先すべきと考える。</li></ul>
<b>取り組みを強化すべき事項</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>地域産品のブランド化を、地方に注目が集まっている現在のタイミングで行うべきと考える。首都圏、中京圏への露出度の増加により認知度の向上を目指すこと。同時に地域内での地域産品の良さを認識してもらい取り組みもあわせて進めるべき。</li><li>また、販路拡大については、プロジェクトを立ち上げ早急に実施すべきである。これにより、消費者のニーズの把握が肌感覚でできるようになり、実感のこもった生産者へのフィードバックが可能となり、より市民に近い行政、信頼できる行政として位置づけも高まると思われる。</li><li>今までは民間事業者の領域であった販路拡大のような施策も市が中心になって取り組むことで、民間事業者、市民の行政に対する意識が向上する、ただし、行政に「おんぶにだっこ」とならないためにも、期間限定、各々の役割分担を始めに明確にしておくことが必要と考える。そのためにも、市民、民間事業者と一緒に「高山の未来」について論議する場・機会を数多く設け、いかに市民、民間事業者を巻き込み、一丸となって進められるかを考えていくことが重要である。</li></ul>

以上、ご記入ありがとうございました。

## 高山市経営戦略立案に係る有識者会議(テーマ:産業)

【事前配布シート】氏名: 吉澤保幸

### 《委員の皆様へのお願い》

視察及び第1回有識者会議を踏まえて、「地域資源を活かした持続可能な産業・経済の確立」に向けて産業戦略として高山市が今後取り組むべき視点や方策について、以下にご記入ください。

第2回有識者会議は、これらのご意見を基に意見交換をさせていただき予定です。

### ご依頼①:

下表の中で、「農業」「林業」「畜産業」「商業」「工業・伝統産業」「産業分野横断」で“生産・加工”“流通・販売”“各工程横断の取り組み”として、第1回有識者会議で皆様からいただいたご意見を記入しております。また、次頁「体制」「人材」の項目についても、いただいたご意見を記入しています。各項目において、加えるべきご意見・視点等があれば、「新たなご意見」の部分に追記いただきたくお願い申し上げます。

		生産／加工	流通・販売	各工程横断の取り組み	
農 業	第1回ご意見	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>飛騨高山のトマト等は他地域の同業者が羨むほど品質が高いのにブランド化されておらず、JAによる系統出荷のみとなっている。ブランド化するのであれば東京をターゲットとして販売するのがよい。</li> <li>高山の街を歩いても高山のトマトやハウレンソウが美味しいという話はなかなか出てこない。</li> <li>トマトやハウレンソウの特徴に消費者視点のメリットが分からない。A級の素材が揃っているが、消費者メリットを伝えきれていない。</li> <li>農業ではスーパーとどのような契約になっているかがポイントであり、スーパーのバイヤーは色々なモノを探している。市が支援しながら実例を作っていかなければ系統出荷から抜けることが出来ないだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6次産業化は、当初は傷物のリンゴでアップルパイ等を作り販売していても、人気が出ると生食で販売する方が利益率の高いものを使うことになり採算が合わなくなってしまう。傷物でアップルパイを製造するならば、農家が共同で組合のようなものを立ち上げ、傷物を集荷して製造・販売する等しなければならぬ。</li> </ul>	
	新たなご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な知恵に学ぶことは無いのか？朝市での語りの集積は無いのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高山野菜の飲食店の利用促進、ホテル等での直売による認知拡大に取り組んでいるか？</li> </ul>	・	
林 業	第1回ご意見	・	・	・	
	新たなご意見	・	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>高山式林業の特徴と差別化は何か(建設材加工、木工加工、自然エネルギー利用の3面連携は出来ているのか?)</li> </ul>	
畜 産 業	第1回ご意見	・	・	・	
	新たなご意見	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>域内飲食店等との連携強化(下呂温泉等)の策は無いのか？</li> </ul>	・	
商 業	第1回ご意見	・		<ul style="list-style-type: none"> <li>地元の名店を巡るナイトさるくのような夜の食べ歩きを開発してはどうか。</li> </ul>	・
	新たなご意見			・	・
工 業 ・ 伝 統 産 業	第1回ご意見	・	・	<ul style="list-style-type: none"> <li>高山市では工芸品を店内で作って店前で販売することができる特徴がある。</li> <li>春慶塗などは製造工程をみてもらいそれに感動して買ってもらえることもある。高いものを売るには工程を見せて価値を伝えて買わせる方がよいのではないか。</li> <li>他地域も産業観光等では、工場を単純に見せるのではなく見せることに投資し、工程の一番面白いところを意識して見せている。</li> <li>春慶塗等、売る人と作る人を一緒にすることでより売れるものができるようになるだろう。</li> </ul>	

	新たなご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなデザイン力強化の方途は何か？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>販売チャネル、プロモーションの強化をどう進めているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部クリエイターの活用</li> </ul>
産業分野横断	第1回ご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京では飛騨高山の名産品はなかなか知られておらずその伝達手段がない。関西圏への露出は多いが関東圏の露出は少ないためもっとPRが必要。</li> <li>物産展より常設のアンテナショップのような常に情報発信できる場が有効。</li> <li>伝統産業や農業等、販路開拓をしっかりとすべきである。販路開拓隊というプロジェクトチームを作り、事業者さんと一緒に直接営業してあげるくらいのことをしなければならない。DVD やポスター掲示だけでなく、マーケットトレーディングショー等、商談の場を活用した取り組みが必要。</li> <li>地域の内需をどのように増やすかという観点も重要。これは、高山の暮らしを深堀し、伝統的な暮らしを次の100年に伝える際に、伝統産業や文化をどのように活用し、どのように発信するかを考えることが必要。お洒落な暮らし等は、高山の伝統産業がポイントになるだろう。また、森林等の自然資源をエネルギーに変換して売電する等、新たな産業によって地域内のお金の循環や自立に繋がり、新しい高山として発信できるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>割り箸づくりの工程等は見ていると大変楽しいものである。</li> <li>観光と産業を分けるのではなく、一体化して推進していくべきである。</li> </ul>
	新たなご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康・医療・介護・福祉、そして教育といった分野での雇用創出の検討はどうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部クリエイターを取り込み、その力による創発を引き出す</li> </ul>



体制	第1回ご意見	<p>(上表を実現するために必要となる体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高山市が10~20年後にどのような街になっていたのか、どのような地域資源で何をしたいのか市が真剣にディスカッションするべきだろう。突拍子もないことを発言できる協議の場を設けた方が良いのではないかと。</li> </ul>
	新たなご意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>各行政区（合併市町村）の中で、新たな町衆を形成し、それらの連携を図っていくべき</li> </ul>
人材	第1回ご意見	<p>(上表を実現するために必要となる人材)</p> <p>【専門家】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県外のプロデューサー人材を招聘し、県内の専門家と連携して、客観性と専門性で高山市の良さをPRしていくのが有効。</li> </ul> <p>【育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他地域では工場を全て見せ、これによって全国から後継者が集まることもある。職人が一同に会する工房を作って観光で来た若者が木工等に興味を持ち、弟子入りするようなこともあるのではないかと。</li> <li>高山の子どもたちが外に出て行った際に、観光大使として、高山のトマトやホウレンソウの美味しさ、春慶塗等、高山の魅力を語る事が出来る人材になるような教育が必要。</li> </ul>
	新たなご意見	<p>【専門家】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アートイベントの開催等を通じて、外部クリエイター等の流入を加速させる</li> </ul> <p>【育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達にもものづくりの現場、家業の暮らし方、の体験学習コースを小、中学校のカリキュラムに織り込む</li> </ul>

(次ページへ続く)

**ご依頼②:**

上表において、高山市が今後特に取り組んでいくべき「重点事項」と思われることや、「強化すべき事項」それぞれの取り組みについてについてお考えをご記入ください。  
その際、できるだけ行政・市民・民間事業者等が担う役割を明確にしてご記入ください。

<b>重点的に取り組むべき事項</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 地消地産の徹底、小さな雇用の創出、各地域・各事業の連環強化、地域内志金の活用による起業支援、</li><li>• 縦割り行政の抜本的見直し</li></ul>
<b>取り組みを強化すべき事項</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 介護・福祉・医療連携の強化と幅広い教育分野の強化</li></ul>

以上、ご記入ありがとうございました。